

県民芸術劇場
神戸オペラ協会 篠山公演

アマールと三人の王様

メノッティ 詞・曲 ★畑中 良輔 訳詞 ★北村 協一 改訂

フォスターの名歌



'92/2月16日(日) PM3:00

たんば田園交響ホール

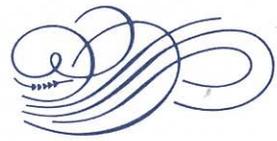
主催/ 篠山町・篠山町教育委員会
兵庫県・兵庫県教育委員会



県民芸術劇場

神戸オペラ協会公演

『アマールと三人の王様』



メノッティ詞・曲*畑中良輔訳詞*北村協一改訂

'92 2月16日(日)PM 3:00 たんば田園交響ホール

〔スタッフ〕

総監督 梅田 正巳
指揮 清水 史広
演出 保坂 博光

舞台美術・衣裳 山口 次世
照明 矢部 四郎
舞台監督 荻野 円蔵
演出助手 藤野 明子

振付 安田 眞矢
振付助手 吉田 茂
メーキャップ 森 秀人
合唱指揮 丸山 眞
練習ピアノ 関山 桂子
辛島 則子
前川 千尋

〔制作〕

大道具操作 たんば田園交響ホール
ステージオペレーター
衣裳制作 ソーイング ホーム山口
小道具製作 神戸オペラ協会制作部
照明操作 たんば田園交響ホール
ステージオペレーター

かつら 丸 善

開場 2:30
開演 3:00
終演予定 5:00

第1部 フォスターの名曲 50分
休 憩 15分
第2部 オペラ「アマールと三人の王様」 60分

〔キャスト〕

アマール 吉田 亜矢子
母親 大西 知代
カスパール王 田代 恭也
メルヒオール王 三原 剛
バルタザール王 佐藤 彰宏
従 者 篠原 良三

〔羊飼いと村人たち〕

篠山混声合唱団(特別出演)

ソプラノ	岸本 美和	下園いそ子	渋谷 克彦
	谷田 恭子	岡田三千代	川端 浩之
	渋谷 及子	高橋喜美代	荻野 徹
	山田ひろみ	山本 弘子	堀井 博之
	長尾 礼子	前川 千尋	大西 康義
	細見 裕美	中西 るみ	山崎 浩司
アルト	鴨奥 明美	テノール 足立 淳	
	片山 恭子	谷口 芳正	

〔村の子供たち〕

篠山少年少女合唱団(特別出演)

ソプラノ	北川 貴子	アルト	桐山 里佳
	前川 依子		新家 美穂
	山田 朗子		谷田 奈生
	岩永 愛子		
	辻 朋宏		

〔村の踊り子〕

木下総合音楽センターバレエ教室(特別出演)

酒井 理佳 豊岡とも子 小前 千夏

〔演奏〕

アマール・アンサンブル

ピアノ 関山 桂子
オーボエ 高橋 裕史
ヴァイオリン きのはらしげこ
コントラバス 藤井 真帆

あ ら す じ

- 時 キリスト降誕の頃
- 場所 ベツヘレムの途中にある山間のあばら屋

だぶだぶの外とうにくるまって角笛を吹いているのがアマールです。
そして家の中に呼び入れようとする母親に「お母さん見てごらんよ、美しい星空に光の馬車のよ
うに大きな星が尾を引いてるよ。」と告げます。



アマール

母親

そこに三人の王様と従者の一行がアマールの家に一夜の宿を求めやって来ます。手にはそれぞれに金の箱、没薬の入った杯、香料のつぼを持ち、従者はオウムのかごをさげています。星の導きによって訪ねて行く幼児への贈り物なのです。

そして貧しいアマールは身上話を始めます。

そこへ王様達への贈り物を持った村の羊飼い達がアマールの家に来て、彼の吹く角笛にのって歓迎の楽しいダンスがくり広げられます。

皆が寝静まると、贈り物の黄金にひかれた母親は、「もしあの黄金があれば、この辛い生活からぬけ出ることができ
る。」と、つい手を出してしまいます。

そして従者に捕えられた母親をアマールは必死でかばおうとします。王様はその様子を見て母親を許そうとします。そしてアマールは、その幼児に自分の一番大切な松葉杖を捧げようとするので
す。

するとどうでしょう！彼は歩けるようになるのです。王様や母親は「奇蹟だ！神のお恵みを賛え
よう。」とお祈りし、アマールは王達と共に神の子に会いに旅立ちます。



カスパール王

メルヒオール王

バルタザール王

従者

フォスターの名歌

	独 唱
主人は眠る	(小嶋)
やさしきネリー	(山本)
オールド・ブラック・ジョー	(米良)
お、スザンナ	(山本)
金髪のジェニー	(小嶋)
老犬トレイ	(米良)
夢路より (二重唱)	(山本・小嶋)
草競馬 (独唱つき合唱)	
なつかしのわがケンタッキーの家 (合唱)	
故郷の人々 (合唱)	

ソプラノ	小嶋 晶子・山本 眞由美
バリトン	米良 俊一
指 揮	小南 智恵 (特別出演)
合 唱	篠山少年少女合唱団 (特別出演)
ピ ア ノ	辛島 則子・柴田 尊子 (特別出演)

全員合唱の曲

故郷の人々

フォスター 作曲
津川圭一 訳詞編曲

一 はるかなるスワニー川

そのしも

なつかしのかなたよ

わがふるさと

旅空のあこがれ

果てなく

思いいずふるさと

父母います

長き年月

旅にあれば

おおつかれしわが胸

父母を慕うよ

二 あげ道さすらいし

思い出

はらからと遊びし

楽しい日

夢あまき歌声

むなしや

おお行きて暮らさまし

母のもとに

(以下繰り返し)